

心と心をつなぐ植草学園広報誌

U-heart

Vol.1

2008 November

創刊号

index

植草学園100年の歴史は 次世代へのメッセージ

写真と年譜で見る植草学園100年の変遷 2

理事長挨拶 2

新生・植草学園がめざすもの

大学・短大大学長からのメッセージ 4

植草学園インフォメーション

平成19年度 決算の概要 / 平成20年度 予算の概要 6

U-heart focus

学園生活紹介 8

学園関連情報

植草学園大学附属弁天幼稚園 / 植草学園大学附属美浜幼稚園 /
植草学園文化女子高等学校 / 植草学園 大学図書館 10

教授・講師陣紹介 12

新入生・在学生インタビュー

私が植草学園で学びたいこと&スクールライフ 14

インフォメーション 15

漢字の今昔 16

表紙写真: L棟1F カフェ・ロッサ(コーヒーラウンジ)

植草学園100年の歴史は次世代へのメッセージ

植草学園は、日本が日露戦争という多難な時代にあった明治37年(1904)に、創設者植草竹子が和裁教育を通して女子教育の大切さに思いを致し、千葉県知事認可を得て千葉町院内の地に千葉和洋裁縫女学校を設立しました。その後、東京新宿の文化服装学院で洋裁を学んだ植草ひょうは、千葉和洋裁縫女学校において県下初めての洋裁を取り入れ、女子の被服

教育に力を尽くします。

学園が今日に至るまでには関東大震災や太平洋戦争など、筆舌に尽くしがたい苦難に遭遇しましたが、その都度苦難を乗り越え再起してきました。そして戦後、学校制度の改革により学校法人と組織変更し、近代教育の第一歩を歩みだしたのが植草文化服装学院です。

植草ひょうは、中学校卒業生にも勉強の道を開くことを願ひ、植草家政専門学院の課程のなかに千葉県立千葉東高等学校通信制との技能提携による被服科をつくりました。これにより多くの生徒たちが全日制課程と同じように被服技術教育と高等学校教育を集団で学ぶことができるようになりました。これが現在の植草学園文化女子高等学校へとつながっていきます。また植草ひょうは、幼児教育の重要性にも目を向け、幼稚園教諭資格取得のために植草幼児教育専門学院と実習幼稚園としての附属幼稚園を発足させました。これにとどまらず植草ひょうは、少子高齢化時代を迎えるにあたり、障害児童福祉・地域介護福祉を専攻とする植草学園短期大学の設立にも努力しました。

その後、植草家政専門学院、植草幼児教育専門学院は、昭和51年(1976)にそれぞれ植草文化服装専門学校、植草幼児

教育専門学校となりましたが、植草文化服装専門学校は多くの卒業生を送り出したものの、本校の果たすべき役割はすでに終えたと判断し、平成9年(1997)に廃校しました。

また、植草幼児教育専門学校は、平成20年3月に短大に統合しましたが、この間36年に渡り、心豊かな専門性の高い幼稚園教諭、保育士を輩出し、幼児教育界のよき担い手として、広く活躍してきました。植草学園文化女子高等学校も大学進学者が年々増加し、100名を超えるようになりました。とくに植草学園大学や植草学園短期大学に進学することで、教育や福祉分野の一貫した教育を実施しています。

植草学園は女子教育が母体でありましたが、大学、短期大学では優秀な男子学生が入学し、今後は福祉社会に大きく貢献してまいります。



初代植草竹子校長と和洋裁縫女学校生

明治37年11月植草竹子(初代校長)が千葉町院内(現千葉市中央区院内)に千葉和洋裁縫女学校を設立。



昭和21年、戦後の仮校舎3教室建つ

昭和20年7月空襲により、戦時措置令で軍需工場へ転用した校舎焼失。



当時の県知事など120余名の来賓にお越しいただき盛大に行われた50年祝典

昭和29年12月創立50周年記念式典挙行。



附属幼稚園児との指人形あそび

昭和51年学校教育法一部改正により「植草幼児教育専門学校附属幼稚園」と改称。(園長:植草勲寿~昭和50年3月)



植草学園(弁天地区)全景

昭和54年4月「文化女子高等学校」設立。昭和59年千葉市小倉町(現千葉市若葉区小倉町)に校舎・グラウンド完成。昭和60年「植草学園文化女子高等学校」と改称。昭和62年2月植草学園創立80周年記念館(体育館)完成。(校長:植草ひょう~昭和63年3月)



短期大学開学記念式 平成11年6月9日

平成11年4月「植草学園短期大学」開学。10年設置認可。(学長:荒井昭雄~平成14年3月)

1904 (明治37年) 1928 (昭和3年) 1945 (昭和20年) 1948 (昭和23年) 1954 (昭和29年) 1959 (昭和34年) 1972 (昭和47年) 1977 (昭和52年) 1979 (昭和54年) 1985 (昭和60年) 1999 (平成11年) 2008 (平成20年)

昭和3年4月千葉県内最初の「洋裁科」を設置。



県下最初の洋裁科が認可される

昭和23年6月「千葉和洋裁縫女学校」を「植草文化服装学院」と改称。10月組織を財団法人とする。



昭和25年に落成した新校舎

昭和34年4月「植草家政専門学院」設立。昭和51年学校教育法一部改正により「植草家政高等専修学校」。昭和57年3月廃止。(校長:植草ひょう~57年3月)



家政専門学院茶道実習

昭和52年4月「植草幼児教育専門学校附属第二幼稚園」を千葉市高洲(現千葉市美浜区高洲)に設立。(園長:植草勲寿~昭和55年3月)



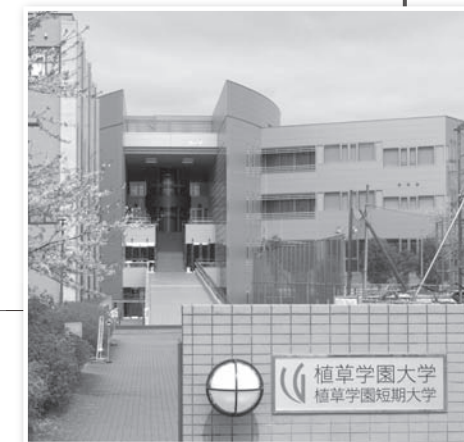
第二幼稚園 園舎

昭和60年「植草学園文化女子高等学校」と改称。



高校野球開会式典補助参加

平成20年4月「植草学園大学」開学(平成19年設置認可。学長:小出進)。



学校法人植草学園 理事長 植草 昭

平成20年4月に植草学園大学が開学しました。顧みますと10年前、植草学園短期大学の開学に向けて、多くの方々のお力をいただきながら、前理事長植草ひょうが高齢にもかかわらず、昼夜激闘していた姿を思い出します。短大設立に向けて精魂を傾けましたが、開学半年前に脳梗塞で倒れ他界しました。93歳でした。

私はその直後理事会の決議により理事長職を受け継ぎ、平成10年12月23日、文部省において「植草学園短期大学設置認可書」をいただく役に成りました。これ

は初代短期大学長荒井昭雄先生、現大学長小出進先生はじめ多くの設立委員の先生方の大きい力がこの一枚の認可書に結晶されているのだと思うと、ずっしり感じる重みを忘れることができません。

その後、寒川英希先生・吉田雄一先生・井内慶次郎先生方から4年制大学構想に力強い励ましのお言葉やご指導を受けました。先生方は「これからの福祉社会に必要とする特別支援教育と保健医療は今やらなければならない。」と言われるのです。私はこれから本格的に迎える少子

化時代と大学激闘時代に向けてどうすべきか、悩み迷いました。人間は励まされたり助言される時が花であります。幸いなことに2人の後継者の支えと多くの先生方のお力がある時にこそやるべきだと決意しました。文部科学省への相談も順調に進み、提出する申請書類は着々と整いました。準備委員会では昼夜にわたる緻密な会議を重ねました。学長小出進先生、副学長・発達教育学部長浦野俊則先生、保健医療学部長小池和子先生をはじめ各分野における先生方の力強いご指導

とご尽力があったことと、同時に意匠院建築設計事務所様、竹中工務店様・建築現場で働く300人余りの従業員の方々のお力が合体しハードウェアとソフトウェアとが、機が熟したように見事に完成しました。そして平成19年12月3日「植草学園大学の設置を認可します」という認可書を受領することができました。私が短大・大学と2度の重大な役割を果たせたことは人生の最大の名誉でありました。

これは学園を支える先生方、さらに104年に及ぶ学生・生徒・園児の皆さん、

学園関係の方々のお力によるものであります。これからがスタートであります。地域社会は当然のこと、多くの皆様のご支援とご指導をいただきながら教育の正道を真一文字に進み、皆様のために役立つ学園づくりに努力して参ります。

21世紀は、植草学園 新たな飛躍の100年に

植草学園大学の開学と発展方向

植草学園大学 学長 小出 進

大学の開学

平成20年4月、植草学園大学は開学しました。植草学園100余年の歴史において、極めて意義深いことと言えます。

本学は、2つの学部と学科からなります。発達教育学部・発達支援教育学科と、保健医療学部・理学療法学科です。新しい福祉系・教育系・保健医療系大学です。

発達支援教育学科では、障害のある子どもにも、ない子どもにも、一人ひとりに的確に対応できる小学校教諭（一種）、幼稚園教諭（一種）、特別支援学校教諭（一種）、保育士を養成します。

理学療法学科では、障害児・者、高齢者等の運動障害に対応する理学療法士（国家試験受験資格）を養成します。

大学の2学部・学科でめざす教育研究と人材養成は、いずれも、今日の社会のニーズに応えるものです。

徳育を教育の根幹に

植草学園は、100余年の歴史の早期から、徳育を教育の根幹とすることを基本理念としてきました。これを踏まえ、学則第1条は、次のように規定しています。

「植草学園大学は、我が国の伝統と文化に基づく徳育を教育の根幹とする建学の精神に則り、広く知識を授け、人格の陶冶を図るとともに、深く専門の技芸を教授研究し、もって地域社会及び我が国の文化の進展に寄与する」

教育は、知育・体育・技育・徳育から成るとされますが、徳育を教育の根幹に位置づけているのです。

徳育を心の教育として

知育をHeadの教育、体育をHealthの教育、技育をHandの教育とすれば、徳育はHeartの教育ということになるでしょう。

品性を磨き、高める心の教育です。

心の教育——それは品性の教育であり、感性の教育でもあります。知育、体育、技育のいづれも重要であることには違いありませんが、それにもまして、心の教育は大切で、Heartの教育こそ4つのHの教育の根幹といえます。

豊かな心を培い、感性を磨き、品性を高めることを、何よりも大切と考えます。人を思う心、それは、豊かな人間性に基づく思いやりの心。人と感じ合い、分かり合い、支え合う心。人の心の痛みにも、喜びにも共感し、共に生きる共存の心であり、人間愛です。

心の通う質の高い大学生活を通して、共に生きる心を培い、磨き、高めることで、豊かな人間性に基づく道徳心も、高い倫理観もはぐくまれ、身につくものと考えます。自らの良心によって、善を行い悪を行わない確かな道徳心を修めたいものです。

共に生きる社会の実現

共に生きる社会——それは、思いやりに満ち満ちた共生社会を意味します。幼い子どもも高齢な人も、学習上の障害や生活上の困難性のある人も、ない人も、共に豊かに生きる社会の実現を願い、めざします。

福祉思想や社会観の進歩に伴い、障害等のある人をも含む社会を追求するようになりました。今日、地域で共に生きることを当たり前のこととするインクルージョン思潮が高まり、その質が問われる時代となりました。

質の高いインクルージョンを実現するには、社会の意識改革が不可欠です。我が国では、障害者と障害者の家庭に対して、自立への努力義務を課する時代が長く続きました。障害等のある人が、現実の社会で、自立的に生きることは、義務ではなく権利です。この権利の保障には、教育的・福祉的・保健医療的等の支援が不可欠です。

この支援は、障害等のある人、一人ひとりのニーズに応えるよう進められるべきです。さらに社会における障害等のある人の主体性が確保され、完全参加が保障されなければなりません。

社会への貢献、地域との連携・協同

本学は、教育・福祉・保健医療の各分野において、社会の発展に寄与する有為な人材の養成をめざします。加えて、植草学園短期大学、植草学園文化女子高等学校等と協力して、地域社会との交流・連携・協同の推進に努めます。

市民のためのキャンパス・図書館等の開放、公開講座・講演会等の開催、研究生・科目等履修生等の受け入れ、学園祭における幼児・障害児者・高齢者等との交流、知的障害者等のための調理教室・スキー教室等の開催、地域の障害者スポーツ大会等へのボランティアとしての参加等々。いずれも、将来の専門分野での活躍と貢献に通じます。

真に社会貢献と言えるほどに有為な人材となるために、在学中から、ボランティア活動等に積極的に取り組み、確かな理念と行動力を身につけたいものです。

2008年新たな飛躍に向けて

植草学園短期大学 学長 植草範子

学園創立100余年の伝統の上に

学校法人植草学園は、明治37年に創設、今年で創立して104年の歳月が経過しました。日本の多くの女子大学の前身が裁縫女学校であったと同様、本学園も千葉和洋裁縫女学校として、県内の子女の教育に貢献してきました。おそらく、この種の学校としては日本において最古のように思います。

創立以来一貫した建学の精神を堅持し、教育に専念してきました。この間、時代の要請に基づいて服飾教育・女子の高等学校教育・幼児教育に携わり、本短大は平成11年に設立、教育目的を「徳育を教育の根幹として、人格を陶冶し、深く専門の学芸を教授研究し、地域社会及び我が国の進展に貢献し得る有為な人材を育成する」と掲げました。

そして福祉社会の発展と充実を求める時代の要請に応え、障害に焦点を当て、地域介護福祉（介護福祉士養成）と児童障害福祉（保育士養成）の2つの専攻を有する福祉学科をもって発足しました。数年後に児童障害福祉専攻に幼稚園教諭養成を、さらに専攻科も加え特別支援学校教諭の資格を取得できるようになり、全国でも例のない短大として、今年で10年を迎え、着々と実績を重ねてきました。言うまでもなく保育士・幼稚園教諭は、障害のない子に対応でき、その上で障害について、専門的になお深く学習した資格者です。本学ではこの有資格者を多数輩出しています。

短大10年。一步一步実績を積み重ねて

10年を経過し、この教育的成果は大きく、学内の雰囲気はじつに明るく和やかで、学生たちは心やさしくたくましく成長しています。社会から大いに歓迎を受け、卒業生のほとんどが専門職に、しかも正職員として採用していただき、地域の福祉・教育界にしっかりと根をおろし大きく貢献しています。こうした短大の実績も相まって、さらに内容の拡充・専門性の高度化をめざし、平成20年4月に4年制大学が誕生しました。

これを支え、指導する教員は各分野で長く経験を積んだエキスパートがそろい、万全を期した陣容を整えています。これが本学の何にも代えがたい生命です。短大の実績の一つをあげますと、この数年文部科学省は大学教育改革を促進させるため、教育の質的向上を図る特色ある取り組みの中から厳選し、支援していますが、昨年度、本学はその高いハードルを見事に越え、「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に選定されました。このことにより文部科学省からも社会からも、本学の活動を高く評価していただきました。

学園の活動は創立以来、日々々々、一步一步前進を続けてま

いりました。平成20年度は開学以来の大きな組織の改革をはかり、大学設立と同時に、36年の間、幼稚園教諭・保育士養成に専念し、県内外の幼児教育界に貢献してきた植草幼児教育専門学校を短大に包含させ、2年制の養成機関の統合をはかりました。専門学校で築いた長い間の経験と社会からいただいた信頼を短大に生かし、より力強い短大の発展を期しました。

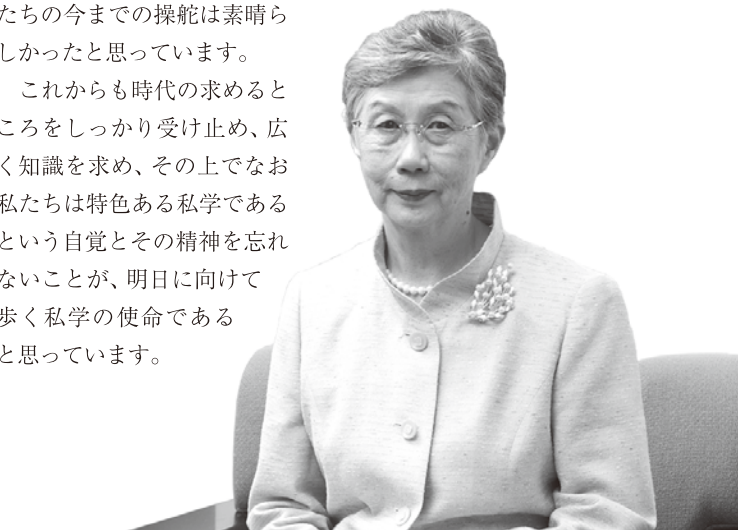
先日学内において、介護福祉の現場と児童福祉・幼稚園の現場で活躍する卒業生を囲む会を催し、2日間にわたって卒業生が後輩に対し、貴重な経験を発表してくれました。学生たちは熱意を込めて語る先輩の姿に、尊敬の思いとこれから自らの進んで行く道が、素晴らしい道であることの確認と、改めて在学中に学んでおかなければならないことの多いことを自覚した様子でした。私たち教員も本当に豊かな心境の一日であり、責任の重さを同時に感じました。

さらなる拡充・発展を期して

本学は来年4月に向けて、専攻科に介護福祉専攻を増設する運びとなりました。この専攻は保育士資格をすでに取得している方を対象にして、1ヵ年で所定の科目を履修すれば介護福祉士資格が取得できる仕組みです。この専攻を新設することは、卒業生の将来を見据えてのことであり、また、日本が急速に高齢社会に突入した現状を踏まえ、この種の人材を1人でも多く養成し、社会のお役に立ちたい、これが本学園学当初からの願いでした。当然のことながら、以前の卒業生も、他の養成校の卒業生の方々も入学可能なことは言うまでもありません。

学園は100年の間、大小さまざまな改革を行って今日に至っています。私学の日常を長い航海に譬えるなら、船の前方のさざ波、押し寄せてくる大きな波、突然目の前に現れた障害物にも、すべて怠りない舵さばきをしなければなりません。また、遠くの洋上に発生した台風を的確に避ける判断力と冷静さを持たなければなりません。私たちは、乗客（学生）を目的地に正しく安全に届けることが最大の任務です。私は学園の先輩たちの今までの操舵は素晴らしかったと思っています。

これからも時代の求めるところをしっかりと受け止め、広く知識を求め、その上でなお私たちは特色ある私学であるという自覚とその精神を忘れないことが、明日に向けて歩く私学の使命であると思っています。





学園の運営状況について

「私立学校法」の平成17年4月1日付け改正によって、事業計画、決算および事業の実績を毎年理事会に報告し、その意見を求めることが義務づけられました。本学ではさる3月28日の理事会で「平成20年度事業計画および予算」、また5月21日開催の理事会で「平成19年度事業報告および決算」について協議した結果、いずれも承認されましたので、本号でまとめて公開します。なお事業報告、事業計画については本学ホームページに掲載しています。

平成19年度 決算の概要

1. 資金収支計算書

収入の部では、「前受金収入」と「その他の収入」について予算との差異が大きくなりました。「前受金収入」は翌年度入学者の入学金等納付金ですが、予算より約2億4,700万円少なく約2億5,600万円となりました。これは新設大学のPR不足で平成20年度の大学入学者が定員を割ったことによります。また「その他の収入」は予算より約3億4,500万円少ない約25億5,700万円でしたが、これは当初19億5,000万円を見込んでいた「施設拡充引き当特定資産からの繰り入れ」が、工事中の大学図書館棟の分の4億円を残して15億5,000万円となったためです。

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	944,660	921,258	23,401
手数料収入	22,800	17,978	4,821
寄付金収入	1,000	4,261	△ 3,261
補助金収入	348,821	348,821	0
資産運用収入	17,540	18,580	△ 1,040
資産売却収入	283,000	282,620	380
事業収入	55,610	48,441	7,168
雑収入	43,800	41,348	2,452
前受金収入	502,135	255,581	246,553
その他の収入	2,902,131	2,557,218	344,913
資金収入調整勘定	△ 277,076	△ 278,197	1,120
前年度繰越支払資金	1,832,966	1,832,966	0
収入の部合計	6,677,388	6,050,878	626,510

支出の部では、「人件費支出」「管理経費支出」「施設関係支出」「その他支出」がやや予算額を上まわりました。これは大学の設置申請を進める上で職員人件費の支出が多くなったためです。また、大学の広報や委託手数料などで「委託手数料支出」が多くなりました。「施設関係支出」は短大において懸案となっていた本下水道への接続工事を実施したものです。

科目	予算	決算	差異
人件費支出	967,519	985,009	△ 17,490
教育研究経費支出	180,410	174,443	5,966
管理経費支出	106,590	129,059	△ 22,469
施設関係支出	1,714,400	1,752,815	△ 38,415
設備関係支出	346,579	339,037	7,541
その他の支出	962,115	1,017,847	△ 55,732
資金支出調整勘定	△ 32,920	△ 51,655	18,735
次年度繰越支払資金	2,432,694	1,704,321	728,372
支出の部合計	6,677,388	6,050,878	626,510

2. 消費収支計算書

基本金組み入れ前の帰属収支差額（帰属収入合計額－消費支出）は、専門学校の募集停止により学生数が1学年のみとなったため、2,800万円の支出超過となりました。基本金組み入れ額は、主に大学の施設設備によるものですが、全体で5億3,390万円となり消費収支差額は5億6,218万円の支出超過となりました。また、翌年度繰越消費収支差額も5億6,496万円の支出超過となりました。

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	944,660	921,258	23,401
手数料	22,800	17,978	4,821
寄付金	1,000	4,261	△ 3,261
補助金	348,821	348,821	0
資産運用収入	17,540	18,580	△ 1,040
資産売却差額	0	158	△ 158
事業収入	55,610	48,441	7,168
雑収入	43,800	41,348	2,452
帰属収入合計	1,434,232	1,400,847	33,385
基本金組入額合計	△ 506,979	△ 533,900	26,921
消費収入の部合計	927,253	866,947	60,306

科目	予算	決算	差異
人件費	977,519	987,436	△ 9,916
教育研究経費	316,600	297,904	18,695
管理経費	120,550	142,992	△ 22,442
資産処分差額	0	796	△ 796
消費支出の部	1,414,669	1,429,129	△ 14,459
当年度消費支出超過額	487,416	562,181	
前年度繰越消費支出超過額	2,782	2,782	
翌年度繰越消費支出超過額	490,199	564,964	

3. 貸借対照表

有形固定資産は、昨年度より大学棟の建築により「建物」が約22億6,900万円増となりました。「その他の有形固定資産」は、約3億1,800万円の減額となりましたが、構築物や機器備品の購入を正味9億5,000万円行っています。その他の固定資産では「施設拡充引当特定資産」が15億5,000万円の減となりました。

科目	19年度	18年度	増減
固定資産	8,112,361	7,707,194	405,167
有形固定資産	7,479,359	5,528,726	1,950,632
土地	2,035,653	2,035,653	0
建物	4,477,477	2,208,408	2,269,068
その他の有形固定資産	966,226	1,284,662	△318,436

その他の固定資産	633,002	2,178,467	△1,545,465
施設拡充引当特定資産	400,000	1,950,000	△1,550,000
第3号基本引当預金	50,000	50,000	0
その他の固定資産	183,000	178,466	4,534
流動資産	1,914,574	2,308,486	△393,911
現金預金	1,704,321	1,832,966	△128,645
その他の流動資産	210,251	475,518	△265,267
資産の部合計	10,026,936	10,015,680	11,255

科目	19年度	18年度	増減
固定負債	25,934	23,507	2,426
流動負債	364,242	327,132	37,110
負債の部合計	390,176	350,639	39,537

科目	19年度	18年度	増減
第1号基本金	9,650,924	7,567,024	2,083,900
第2号基本金	400,000	1,950,000	△1,550,000
第3号基本金	50,000	50,000	0
第4号基本金	100,800	100,800	0
基本金の部合計	10,201,724	9,667,824	533,900

科目	19年度	18年度	増減
翌年度繰越消費支出超過額	564,964	2,782	562,181
消費収支差額の部合計	△564,964	△2,782	△562,181
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	10,026,936	10,015,680	11,255

平成20年度 予算の概要

平成20年度から植草学園大学がスタートすることになり、大学設置に必要な施設設備費、また、運営に係る教職員人件費や諸経費等を予算に組み込みました。

予算編成にあたっては、大学の設置関係に重点を置くこととなりますが、既設校の中長期計画に基づく教育・研究活動に支障を来さないよう十分に配慮しています。

小倉キャンパスにおいて、新図書館（大学、短期大学共用）が完成し、図書はもちろんのこと、電子ジャーナル、データベースやPCも整備され教育環境の充実が図られます。

植草学園文化女子高等学校でも図書館が改修され、問題解決学習に適応した利用しやすい図書館となります。高等学校では生徒全員の机椅子を移動し易いものと入れ替えます。

また、学生が減少している分野の教員数の見直しや専任職員の採用を嘱託職員やパート職員に切り替えるなど、人件費の抑制に努めます。一般経費についてもエアコンの集中管理による光熱費の削減、委託手数料の見直しなどにより削減を図っていきます。

平成20年度 資金収支予算書

科目	金額	内容
学生生徒等納付金収入	1,115,965	入学金、授業料
手数料収入	23,500	入学検定料
寄付金収入	200	一般寄付
補助金収入	338,100	国庫補助、県補助
資産運用収入	10,040	受取利息等
資産売却収入	0	証券売却
事業収入	49,543	用品代
雑収入	6,020	退職金財団交付金等
前受金収入	608,735	翌年度入学者納付金
その他の収入	403,120	
資金収入調整勘定	502,135	
前年度繰越支払資金	2,714,458	
収入の部合計	4,767,546	

科目	金額	内容
人件費支出	1,204,711	教職員人件費
教育研究経費支出	226,217	教育用消耗品等
管理経費支出	101,805	広報費等
施設関係支出	516,993	建物建設
設備関係支出	119,965	備品購入
その他の支出	421,770	
資金支出調整勘定	18,150	
次年度繰越支払資金	2,194,235	
支出の部合計	4,767,546	

平成20年度 消費収支予算書

科目	金額	内容
学生生徒等納付金	1,115,965	入学金、授業料
手数料	23,500	入学検定料
寄付金	200	一般寄付、現物寄付
補助金	338,100	国庫補助、県補助
資産運用収入	10,040	受取利息
事業収入	49,543	有価証券売却差額
雑収入	6,020	退職金財団交付金等
帰属収入合計	1,543,368	
基本金組入額合計	△636,958	
消費収入の部合計	906,410	

科目	金額	内容
人件費	1,235,150	教職員人件費
教育研究経費	424,910	教育用消耗品等
管理経費	115,423	広報費等
消費支出の部合計	1,755,482	
当年度消費支出超過額	869,072	
前年度繰越消費支出超過額	564,964	

School Life



植草学園での生活をレポート!
みなさん学園生活をエンジョイしています。



代表者 保健医療学部 理学療法学科 間山晶斗

フットサルサークル FC Big Mac

from
大学

開学したばかりの大学なので、サークルはありませんでしたが、保健医療学部のみなさんに声をかけ、フットサルサークル FC Big Mac を立ち上げました。現在は 14 名で活動しています。帝京平成大学、東京情報大学、千葉大学などが参加している千葉県フットサルリーグに所属し、他大学のサークルとも試合をしています。サークルとはいえ試合は、本気で戦っています。しかし、フットサルの醍醐味は、仲間と楽しむことです。フットサルコートで、週 2 回（木・土曜日）、主にフットサルの戦術を書籍で勉強し、実戦形式での練習を行っています。FC Big Mac は初心者も、経験者も大歓迎です！ 気軽に参加してください。

ダンスサークル D-Link

from
短大



私たち D-Link は専攻科 4 人、2 年生 4 人の 8 人で活動しているダンスサークルです。

“D-Link” というサークル名は「ダンスでつながりを」という意味があります。メンバー全員が大好きなダンスを通して、普段関わりの少ない友人や先生方、また地域の方々と交流をする機会を増やしたいという気持ちからこのサークル名にしました。

私たちのダンスは HIPHOP を中心としたダンスで、もともとあるダンスをまねしたり、時には自分たちで振り付けを考えたりとメンバーで協力をしながら 1 つのダンスを仕上げるため日々活動しています。

練習したダンスは文化祭やオープンキャンパスなど学校行事のイベントの場で発表しています。まだまだサークルとしての活動は始まったばかりですが、D-Link という名前にふさわしい活動をこれからも続けていきたいと思っています。

代表者 短期大学 専攻科（特別支援教育専攻）

今井菜名

図書館がリニューアル!

from
高校



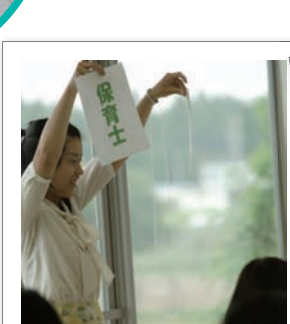
明るくゆったりとした図書館に生まれ変わりました。ブラウジングコーナーの椅子は、北欧デンマークのフリック・ハンセン社のセブンチェアを採用。

座り心地がとても良いです。調べ学習で相談しながらできるテーマごとの資料コーナーや丸テーブルも用意されています。窓に向けて学習できるスペースも設けてあります。



Open Campus 2008

7月26日(土)に開催されたオープンキャンパス。当日はたくさんの生徒さんや保護者の方が訪れ、植草学園での大学生生活体験を楽しんでいました。



学校説明会開催中!

お気軽にご参加ください。

11月22日(土)・23日(日) 学園祭開催 (相談コーナーを設けます)
10:00~16:00

12月20日(土) 1月10日(土) 2月14日(土)
10:00~12:00 10:00~12:00 10:00~12:00

- 大学紹介・入試説明・キャンパス案内・個別相談などを行います。
- 学校説明会当日は9時45分にJR都賀駅東口5番乗り場より大学行き無料送迎バスを運行します。
- 高校1・2年生、保護者の方のご参加もお待ちしております。
- ご来学の際は、できるだけ事前にお電話でご連絡ください。

入試・広報室 TEL.043-239-2600(直通)

短大の地域介護福祉専攻の 主催による特色 GP 特別講演が 6月21日(土)に開催されました。

講師には千葉労災病院リハビリ科 ATR 知能ロボテックス研究所 言語聴覚士・学術博士の安田清先生をお招きし、「簡単な道具と機器による認知症と記憶障害の方への生活支援」というテーマで講演していただきました。受講者からは、「もう終わったの? という感じで、あっという間に時間になった」との、充実した内容だったことを伺わせる感想も聞かれました。



from
幼稚園

安全と安心のため 非常とびらを設置!

美浜幼稚園では、夏休み中に玄関に非常とびらを設置しました。広々とした玄関は自慢の一つでしたが、狭くなってしまうのではと懸念もありました。

できあがってみると、白枠に大きなガラスのとびらはきれいで、狭さを感じることもなく、安全と安心を感じます。早速、担任がとびら前に園児を集め、約束ごとを確認し合い、約束はしっかりと守られています。保護者の方には解除の方法をお知らせし、今では抵抗なく使われています。



植草学園大学附属弁天幼稚園

平成20年3月、植草幼児教育専門学校は学園の教育機関向上、充実に向け、植草学園短期大学と発展的統合をしました。4月には、植草学園大学が開学し、それに伴い幼稚園は「植草学園大学附属弁天幼稚園」と改名しました。専門学校附属幼稚園としての36年間の実績を大切に、大学附属幼稚園として、よりよい保育を目指していけるよう教職員一同新たな気持ちで臨んでいます。

さて、今までは行事実習ということで学生さんが密着して園行事をサポートしてくれましたが、これからは学生ボランティアとして行ってくれます。すでに8月の夕涼み会、合宿保育では、短時間の中でも綿密な打ち合わせを行い、学生さんたちは積極的に活動してくれました。おかげさまで園児たちはとても楽しい充実した時間を過ごすことができました。



夕涼み会・のどじまん



合宿保育

植草学園文化女子高等学校 校名変更により高大連携を推進!

植草学園文化女子高等学校は、学校名を平成21年4月から「植草学園大学附属高等学校」と変更いたします。

大学を組織の頂点として大学・短期大学と高等学校との高大連携を一層推進し、本校教育の更なる充実・発展を期して

学校名を変更するものです。これまでの学校名には、皆様方からたくさんのご支援をいただき、在校生や卒業生にとっても馴染み親しんでいたことに感謝申し上げます。

大学開学に伴う新しい学校名に対しましては、高大連携を始め更なる飛躍のステップとして、早くも各方面から期待の声をいただいております。

ソフトテニス部インターハイへ!

植草学園文化女子高校ソフトテニス部は、県予選を勝ち抜き、7月に行われたインターハイ(埼玉県川口市)の個人戦に3組が出場しました。なかでも草野・鈴木ペアは、5回戦まで勝ち進む健闘をみせてくれました。

ソフトテニス部の合言葉は「応援される人間になろう」です。単なる体力づくりや技術習得ではなく、誰にも認められるような人間性を磨く部活動を目指しています。初心者もいる30名程度の部ですが、県内でトップクラスの実力を誇り、県内各地から有力選手も集まっています。



「翔輝夢掴」部旗も作りました

〈インターハイ出場者〉

草野亜由美(3年)・鈴木 まみ(3年) ペア
高橋みづき(2年)・高山 朋夏(2年) ペア
霜出 佳奈(1年)・高石 美晴(2年) ペア

〈過去の実績〉

全国大会出場 17回
関東大会出場 17回
千葉県大会優勝 12回

植草学園大学附属美浜幼稚園

昨年、創立30周年を迎えた本園は、今年4月の「植草学園大学」の開学に伴い、「植草学園大学附属美浜幼稚園」と改名しました。現在、約180名の園児たちが、広い園庭で伸び伸び遊びや活動に参加し、充実した園生活を送っています。

4年前から、子育て支援の一環として、夏期休業中も預かり保育を実施していますが、今年は希望者が非常に多く、18日間で延べ413名(1日平均23名)の園児を預かりました。預かり保育担当の先生たちの綿密な保育計画の下、水遊びや小麦粉粘土遊びなどを楽しみました。また、月1回の園庭解放「おひさまくらぶ」には、未就園児を連れて保護者の方が大勢参加し、保護者同士の交流、子どもたちとの触れ合いの場となっています。

子どもたちの豊かで健全な成長を願い、職員が一丸となって日々の保育に当たっています。



夕涼み会



3回目の小学校初任者研修会

植草学園 大学図書館“Media Gate” まもなく完成!

大学図書館は、今日の高度情報化社会・生涯学習社会における「知の象徴」と同時に、大学教育における「知のメディアセンター」でもあります。したがって大学教育における図書館サービス機能はこれまで以上に重要な意義・役割を有しますので、本施設の計画にあたってはキャンパス内に立地する大学附属施設(M棟：通称Media Gate)として、大学棟(L棟)を手がけてくださいました寺川典秀氏(株式会社)に設計していただきました。

外観は、景観に配慮して3階建てとし、正面ファサードは学生以外の地域住民も生涯学習という立場で利用できる「ユニバーサルアクセス」を具現化するため両腕を広げたような形状になっています。

館内は、1階部分には図書検索システム用のネットワーク化されたコンピュータ端末、利用者の図書・資料探索や学習・教育・研究支援するためのレファレンスカウンター、新着書展示架、雑誌・新聞等の閲覧を行うサンルームコーナーのほか、就職・進学・資格取得等をサポートするキャリア支援室・カウンセリングコーナー、中講義室、ピアノレッスン用の「音楽メディア」コーナー、2階部分には図書館の中心機能の開架書庫、閲覧室、サービスカウンターのほか、個人学習用キャレル、個人学習ブース、グループ学習室、3階部



図書館棟内イメージ



完成間近の図書館外観

分には多目的利用を想定した円形大講義室(定員300名)が配置されています。

なお、図書館の基本機能である収蔵冊数は5万冊(開架書庫および集密書庫)を計画しており、将来的な蔵書増に対しては、図書館棟に隣接して増築を想定しています。



図書館側面イメージ



図書館正面イメージ

**スキルアップにとどまらず
実生活で生かすことを学習**

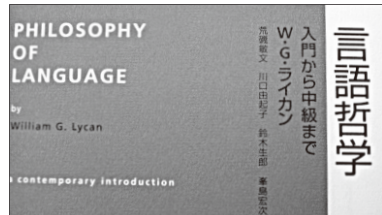
大学発達教育学部
発達支援教育学科 講師

川口由起子

はじめまして。私の現在の研究テーマは、「日常言語における文字どおりでない意味の伝達と理解」です。

私たちは、言葉によって情報伝達をしています。言葉によって伝達される情報は、じつは、文字どおりの意味だけではありません。感情や態度など、人間関係の重要な要素となるさまざまな内容を伝達合っています。ところが、その理解の大きな手がかりになるのは、やはり言葉です。どのようにして、言葉から言葉の意味とは別の内容を理解することができるのでしょうか。この不思議な現象を解明するために、言語哲学理論と情報科学理論の2つのアプローチから研究しています。

担当講義はコンピュータ演習と情報機器演習です。パソコンの一般的なスキルだけでなく、実際の生活で役立つ情報伝達のための技術や考え方についても学習することができます。みなさんのコミュニケーションツールを豊富にするお手伝いができればうれしいです。



2005年、川口先生等4名の共訳で出版された『言語哲学』

**ヒトの残存機能を
積極的に活かします**

大学保健医療学部
理学療法学科 准教授

宮坂 智哉



私の研究方針ですが、理学療法はもとよりリハビリテーション、障害者支援と、より幅広い分野で、人や社会に役立つよう

にと考えて進めています。

現在、研究テーマは大きく3つの柱で構成されています。1つは肢体不自由者のコミュニケーション支援で、眼球を動かしてパソコンの操作や呼び鈴を鳴らすスイッチを開発し、実際に患者様に使っていただきました。装置の開発はもっぱら独学で、製作も一人でしています。付随して、対象となる患者様の在宅ケアやQOLの評価を行いました。2つ目は従来では困難な身体計測で、例えば脳卒中の後遺症を持つ方を対象にし、安全を促すための手段を探索するために、眼球の動きと身体の動きを同時に計測し評価することを進めています。3つ目はより基礎的なテーマで、センサーや通信回路を組み合わせた、障害を有する運動機能の実体シミュレーションに取り組みたいと考えています。

何か興味がありましたらいつでもお声をおかけください。

**介護の世界でも
「相手のことを知る」が第一歩**

短期大学福祉学科
地域介護福祉専攻 講師

清宮 宏臣



我が家に新しい同居(人?)が増えました。20数匹のメダカの御一行様です。大事に育ててきたであろうメダカをおすそ分けしていただきました。子どもが「めた(だ)か、めた(だ)か」といって喜んでる様子を見て、勢い飼うことになったものの、メダカのことをよく知らない私は飼うことにあまり乗り気ではありませんでした。

同居(人)となった翌朝に1匹、翌々朝にまた1匹と亡くなっていく様子を見るにつけ「なぜなんだろう?」と、私の中でメダカの存在が日を追うごとに大きくなり、メダカのことを調べ(情報収集し)始めている私がありました。にわか仕込みながらも、メダカが住みやすい環境作りにも、いつの間にやらメダカのお世話

に夢中になっている私。

そういえば、介護の仕事も「相手のことを知ろうとすることから始まって、いつの間にやら相手のことを気にかけている」、そんな気持ちになる仕事だったような…(人間とメダカを一緒にするなというお叱りの声もあるかもしれませんが)。

メダカとの生活で今後楽しみにしていることは、仲間が増えること。産卵、孵化してたくさんのメダカが誕生することです。本職においても多くの介護福祉士という仲間が増えることを楽しみに待っています。

**子どもたちと心から
笑顔になれる楽しさを味わう**

短期大学福祉学科
児童障害福祉専攻 講師

浅川 繭子

去年まで幼稚園教諭をしていました。保育者の醍醐味は…子どもたちと「今日は楽しかったね～!また明日ね!」と心からの笑顔で顔を見合わせる帰りのひと時です。この仕事やっていて良かったなあと思うのです。しかし残念なことに、クラスみんなで一体感をもって感じられる日は、沢山はありませんでした。

子どもの遊びが、保育者の保育が、どのように展開された時にそうなるのか、学生の皆さんと一緒に考えていきます。将来ぜひその醍醐味を味わって欲しい!そして、短大でもそんな嬉しいひと時を皆さんと一緒に感じられるようになりたいです。



**小出 進 学長、特別支援教育の
第一人者として「三木賞」受賞!**



大学学長の小出進先生が、長く理事長を務められた全日本特別支援教育研究連盟(全特連)より斯界の第一人者として「三木賞」の表彰を受けられました。

小出先生は、戦後、知的障害教育の確立期から根幹の役割を果たされました。とくに知的発達障害のある

子どもたちの自立的・主体的な取り組みについて、その理念と実践方法の明確化に尽力されました。また、学習指導要領の改訂に何期も関わられ、文部科学省、厚生労働省等の審議

会委員や関連団体の理事・役員などの要職を務められました。長年の特別支援教育を中心とする卓越した研究とご活躍により、このたび顕彰されたものです。おめでとうございます。

■三木賞
知的障害を含む発達障害教育の分野で、研究者ならびに指導者として第一人者の役割を果たし、その功績が著しい方に授与されます。本賞は、全特連初代理事長故三木安正氏の寄付金によって制定されたものです。

■経歴
植草学園大学学長 千葉大学名誉教授
東京都立青鳥養護学校教諭、千葉大学教育学部講師・助教授・教授、植草学園短期大学設置準備委員・教授・学科長・副学長・学長、植草学園大学学長 現在に至る。全日本特別支援教育研究連盟第三代理事長・同顧問、教育職員養成審議会委員、大学設置審議会専門委員、教育課程審議会臨時委員、中央児童福祉審議会委員、中央心身障害者対策協議会専門委員、全日本手をつなぐ育成会(旧全日本精神薄弱者育成会) 理事、日本発達障害福祉連盟(旧日本知的障害者福祉連盟) 理事、日本発達障害福祉連盟(旧日本精神薄弱者福祉連盟) 編「発達障害白書」編集委員長、日本発達障害学会(旧日本精神薄弱研究協会) 理事・副会長、日本特殊教育学会名誉会員・同機関誌編集委員・同名誉会員、日本教育心理学会常任編集委員ほか。

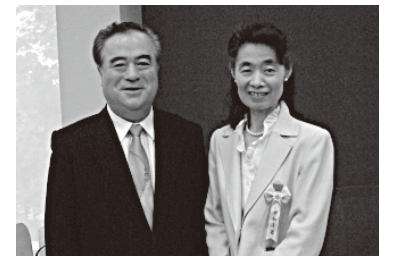
**小池和子保健医療学部長
茨城県知事より感謝状**

保健医療学部小池学部長は、茨城県に勤務されていた平成17年10月つくば市長より、「特例市としてのつくば市における建築行政に関する公衆衛生的側面からの貢献」によって感謝状を授与されました。

つくば市に関しては現在引き続き、文教と環境を重視するつくば市における根幹的課題を審査する都市開発審査委員として月1回出向しておられます。(他の地域貢献については省略)

さらに茨城県立医療大学の創設から、保健医療学部教授、医科学センター長、学生部長、他県委員会など、茨城県における保健・医療・福祉の連携に関して種々の地域貢献を行い、「長年の茨城県の行政、特に教育と保健医療福祉行政に対

する貢献」によって、平成20年7月1日、茨城県知事から感謝状が授与されました。祝賀会では知事から、「植草学園大学では、さらに保健医療に携わる学生たちの育成をめざして発展されるように期待している」とお言葉をいただきました。



(写真は表彰パーティでの橋本知事と小池学部長)

■経歴
東京教育大学大学院修了後、千葉大学生物活性研究所中毒研究部に勤務(8年)、筑波大学の開学によって1976年筑波大学医学専門学群・社会医学系講師(のち助教授)として19年勤務後、時代の要請にそって保健医療学部を有する茨城県立医療大学の創立に携わり、開学後13年間要職を務められた。植草学園大学の開学より保健医療学部長。日本公衆衛生学会、日本衛生学会、評議委員ほか。

**長谷川修治発達教育学部教授
公募論文掲載書籍が学術賞を受賞**

2008年9月11日、長谷川修治教授の公募論文を掲載した英文論文集『English Lexicography in Japan: 日本の英語辞書学』(大修館書店・写真)が、2008年度大学英語教育学会(JACET)学術賞を受賞しました。

この論文集は、同学会英語辞書研究会が、日本の辞書学・英語語彙論の成果を世界に向けて発信するために、創立10周年を記念して刊行したものです。掲載された論文は25編あり、うち23編が公募論文です。

同教授の論文は、イディオム辞典として有名なOxford Dictionary of English Idioms(1993)の計量的分析で、辞典に表記された表現数と実際の見出し表現数の違い、イディオムに多用される文法形式、イディオムの構成語数による頻度分布が明らかにされています。

この調査研究の成果は、辞典の編纂や英語教育にとって有益であり、長谷川教授の今後の活躍が期待されます。



受賞の対象となった『English Lexicography in Japan: 日本の英語辞書学』論文名:A Quantitative Analysis of the Entries in Oxford Dictionary of English Idioms(1993): The Headphrases, Grammatical Patterns, and Constituents' Number

新入生・在学生インタビュー

私が植草学園で学びたいこと&スクールライフ

新たに開学した植草学園大学に第1期生として入学した新入生、そして“福祉の植草”を世に知らしめている短期大学の福祉学科に学ぶ在学生と今期の新入生に、大学選定とその抱負について話していただきました。軟弱な大学生批判が聞こえてくる昨今、植草はひと味違うということが以下のお話にも現れています。

大学選択は目的にそって決定

矢野 私がこの大学への入学を決めたのは、障害児教育に興味があったからです。小学校1年のとき、特別支援学級の子もたちといっしょに遊ぶ機会があったのですが、みんな、その人たちは私たちと違うという目で見ていてにすごい違和感をもちました。それからなぜそんなふうになるんだらうと、だんだんに障害児教育に興味をもつようになりました。

障害児教育の先生になるには大学で専門の教育を受けなければなりません、高校のとき、植草学園が障害児への特別支援にすごく力を入れていることを聞き、調べてみたらなんと今回が第1期。私たちが新しくつくり上げていくんだと思ったら、楽しそうだったので、入学を希望しました。

藏合 ほくが理学療法士をめざそうと思ったのは中学生のときでした。きっかけは入院中の祖母を見舞ったときのことです。祖母のリハビリに付き添いながら指導する理学療法士を見て、なんて素晴らしい仕事なんだろうと感じたからでした。

大学は理学療法学科に絞って受験しましたが、植草学園に決めたのは、ほくも第1期生ということが大きく影響しました。

清宮 私も中学生のころに介護の仕事に興味を抱くようになったのですが、高校に入ると特別養護老人ホームを見学する機会があり、介護福祉士さんのお話を聞いて、私も介護福祉士の資格を取ろうと思うようになりました。それで介護福祉士の資格を取れる大学をいろいろ調べていると、ちょうど植草学園のオープンキャンパスが行なわれていたので参加したのですが、先生と学生の距離間がものすごく近く感じました。また、スクールバスで通う先輩たちの生き生きとした楽しそうな姿を見ていたので、迷わずここに決めました。

桜田 私が植草学園に入学したのは、保

育士の資格を取るためです。保育士になりたいと思ったのは保育園に通っていたころからで、ずっと思い続けていました。というのは、そのころ私たちを見てくれていた保育士さんが、私が年下の子の面倒をみると、褒めてくれたからでした。このときの感激が忘れられず保育士をめざしていますが、何より子どもの気持ちの分かる保育士になりたいと思っています。

島野 私は小学校のときから近所の子たちと遊ぶ機会が多く、しかも年下の小さい子が多かったのも、そのころからなんとなく自分は子どもが好きなんだなあと考えていました。それから子どもたちと関われる仕事である保育士になりたいと思うようになったのですが、年齢などに関係なく子どもたちと仲よく遊んでいたことがきっかけだったと思います。

植草学園を知ったのは高校のときでしたが、大学の選択は悩みました。先生に相談したり自分なりに調べて見学をして、お話も聞いて、ただ資格が取れるというだけでなく、いろいろ保育について深く学ぶことができることが分かり、決めました。

仲間と一緒に、充実のキャンパスライフ

桜田 学生生活は楽しいけれど、実習がたいへんです。でも、去年1年生のときに厳しく指導していただいたことがだんだんうまくやれるようになって、先生にすごく変わったねって言われるとうれしいです。失敗しても、辛かったことを思い出しながら前向きに考えて、つぎの実習は頑張ろうと、先生や友達に相談していると、支えられているって感じがして充実しています。

島野 福祉は実習が中心だけれど、実習はたいへんです。授業で学んだことがすぐに実習でできないこともあり、ああ、これ授業でやったなあって思い出したり……。きっと就職しても大学で学んだことはこんなふう思い出さずらうなって感じます。だから初心の気持ちを忘れ

ずに頑張りたいです。
矢野 入学してまだ数ヶ月なので、やっていることは一般教養の基礎。早く専門的なことを学びたいと思うけれど、この基礎があってこそだと思って今はガマン中。でも大学に来ておなじ趣味の仲間とおしゃべりするのはほんとうに楽しいです。

清宮 介護の現場が厳しいのはそれなりに分かってはいたつもりだったけれど、勉強もけっこう難しいしたいへんです。実習も不安なことがいっぱい。でも自分が興味をもった分野だし、友達もみんなおなじ気持ちの人たちだからいろいろ相談できるし、辛くても楽しいです。

藏合 往復5時間近い通学はちょっとたいへんだけれど、徐々に専門的な勉強も始まり、やりがいがある楽しいです。前期の試験では、みんなで集まって勉強会をしたり、遅くなったときは友達のところ泊まったり充実した毎日ですが、これからの見学実習や、2年生になってからの本格的な実習でいろいろ経験できそうなので、今は不安と期待が入り混じっている感じです。

<出席者>

	矢野 友香里 発達教育学部 発達支援教育学科1年 (千葉県立千葉女子高等学校)
	藏合 勇斗 保健医療学部 理学療法学科1年 (神奈川県立嗣庵学園高等学校)
	清宮 友美 短期大学福祉学科 地域介護福祉専攻1年 (千葉県立若松高等学校)
	桜田 美咲 短期大学福祉学科 児童障害福祉専攻2年 (千葉県立九十九里高等学校)
	島野 佳央里 短期大学福祉学科 児童障害福祉専攻2年 (千葉県立袖ヶ浦高等学校)

●学内消息
人事異動(平成20年4月1日付)
●採用

植草学園大学 発達教育学部	浦野 俊則
教授(副学長・学部長)	西村 正司
〃	大木 みわ
〃	長谷川 修治
〃	野口 芳宏
〃	貫井 正納
〃	高野 良子
〃	安藤 則夫
〃	桑田 良子
〃	小林 敢治郎
〃	太田 俊己
〃	渡邊 章
〃	藤田 俊明
准教授	高木 夏奈子
〃	森高 光広
〃	川口 由起子
講師	
植草学園大学 保健医療学部	和子
教授(学部長)	小池 基一郎
〃	齋藤 桑名
〃	田中 勇治
〃	佐藤 将朗
〃	宮坂 智哉
講師	阿部 勉
〃	村上 仁之
〃	荒金 房子
短期大学 福祉学科 児童障害福祉専攻	
講師	相磯 友子
〃	田村 光子
〃	浅川 蘭子
植草学園文化女子高等学校	
副校長	勝呂 哲
教諭	櫻間 右多
〃	岩田 岳人
〃	谷嶋 あゆみ
〃	平山 カオル
弁天幼稚園	教諭 出木 麻子
美浜幼稚園	教諭 堀切 裕子
〃	〃 植木 未来
〃	〃 齋藤 真純
植草学園大学	
法人課	事務 植草 真歩
財務課	〃 井口 美晴
教務課	〃 安部 茂
入試・広報室	〃 柴田 浩代
実習支援室	〃 小林 鶴枝
実習支援室	〃 長嶋 雅美
健康管理室	看護師 森 洋子
●配置転換	* () 内は前職
植草学園大学 発達教育学部	
教授	川端 真由美(短大「教授」)
准教授	宮下 裕一(短大「准教授」)
〃	植草 一世(短大「准教授」)
〃	多田 昌代(幼専「講師」)
講師	広瀬 由紀(短大「講師」)
〃	小泉 佳右(短大「講師」)
教務課 次長	植草 史江(幼専「校長補佐」)
教務課 入試・広報室長	木村 昌代(短大「教務課長補佐」)
学生課 実習支援室長	野呂 定夫(幼専「事務長」)
総務課 事務	山塾 美由紀(幼専)
学生課 事務	中西 恭子(幼専)
短大 児童障害福祉専攻	
講師	黒田 静江(幼専「講師」)
〃	松原 敬子(幼専「講師」)
短大 地域介護福祉専攻	
助教	根本 曜子(幼専「講師」)
植草学園文化女子高等学校	
事務主任	河野 光子(法人経理課事務主任)
美浜幼稚園	
教諭	鈴木 香葉(弁天幼稚園)

公開講座のご案内

植草学園大学開学記念・植草学園短期大学創立10周年記念 公開講座2008
後援 千葉市教育委員会／千葉市生涯学習フェスティバル協賛事業

講座名	講師	日時	受講料	定員
手作りを楽しむマイブック教室 (※教材費別途1,200円)	手作り本研究会 代表 塩谷博晴	11月22日(土) ★大学祭1日目 13:00～15:30	1,000円 教材費別途	50名
通常学級における特別支援教育を考える ※小・中学校教員対象	植草学園大学 教授 桑田良子	12月6日(土) 12月13日(土) 13:30～15:30	2,000円	40名
ウィンタースポーツ(スキー・そり等)を楽しむ(実費34,000円) ※出発当日12月19日に35,000円支払い	植草学園大学 講師 小泉佳右	12月6日(土) 13:00～14:30 ※オリエンテーション 12月19日(金)～21日(日) 長野県戸隠スキー場	1,000円 別途実費	20名

詳細は、総務課(公開講座係) TEL043-239-2646までお問い合わせください。

短大専攻科に「介護福祉専攻」を新設

※平成21年4月の設置を申請中

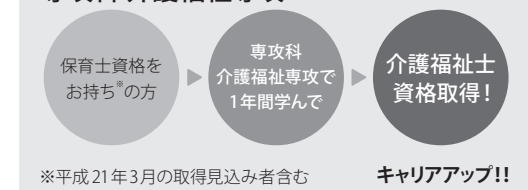
植草学園短期大学では、社会の高まるニーズに応え、保育士資格を持っている方を対象に1年間で介護福祉士資格取得を目指す専攻科「介護福祉専攻」を平成21年4月に新設します。

専攻科 介護福祉専攻

●修業年限	1年(男女共学)
●入学定員	40名
●入学資格	養成校で保育士の資格を取得した人 (平成21年3月の取得見込み者含む)
●取得資格	介護福祉士 (国家試験免除で卒業と同時に取得)

※平成25年1月に実施される国家試験からは受験が義務化されます。

専攻科 介護福祉専攻で学べば...



介護福祉士は、支援を必要とする高齢者や障害者と共に生き、一人ひとりからその生き方を学び、自らをも高められるすてきな専門職です。介護福祉士への期待とニーズは高まり続けています。

大学・短大 平成21年度入学試験日程 (11月以降)

入試区分	出願期間	試験日
推薦B(公募制)	11/25～12/4	12/12
一般A	1/13～1/22	2/3
一般B	2/16～2/26	3/6
センター試験利用A	2/3～2/13	* 2/18
センター試験利用B	2/16～2/26	* 3/6

※センター試験利用A・Bは大学のみとなります。
*保健医療学部は面接を実施。発達教育学部は本学における個別試験はありません。
※各学科の募集定員、試験科目など詳細はホームページまたは募集要項をご覧ください。

漢字の **今昔**

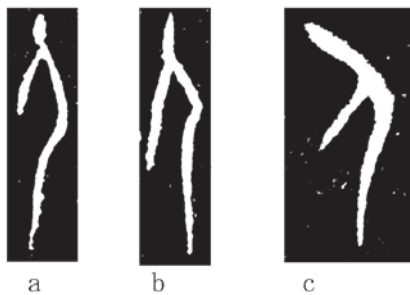
植草学園大学 副学長
浦野俊則

漢字は、紀元前1200年よりも前から使われ、見かけの形は変化しつつも、現代まで使いられている文字です。世界にはたくさんの文字がありますが、このことは、きわめて珍しいことです。

古代から現代まで通用している漢字が、どのように変化してきたのかという点を、これから少しずつ紹介します。

上の図は、全部「人」の字です。古いものから順に並べてあります。

aとbは、殷時代後期（紀元前11～12世紀）の甲骨文字から拡大しました。人が立っている姿を側面から見た形です。cは、同じ時期の青銅器につけられた銘文（金文という）の例です。頭部が長く、うつむいた姿に書かれています。dも金文ですが、西周時代前期（紀元前



9～10世紀）の例で、肩から下がまっすぐ書かれています。ここまでは、人の形ということが見て取れます。

eは、前漢時代の学者許慎が著した『説文解字』（紀元前100年頃）という字書に集録された篆書体の「人」の字です。手の部分が足と同じ長さに縦に書かれていて、これでは、「人」の形だとは理解しがたい姿になっています。篆書体では、同じ太さの線で縦長の長方形に収めるよ

第一回



うな書き方が多く見られます。

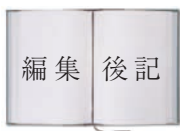
fは、後漢時代の末期（紀元2世紀末）に書かれた隸書体の例です。隸書体では、形を左右に広くして、はねや払いをつけることが多く行われました。ますます、人の姿からは遠ざかっています。gは、唐時代・700年代に書かれた楷書体の例です。現代の形と同じです。fの隸書体から進化したものです。

「人」の字は、斜めの線がお互いに支え合っている字であり、そのように人はお互いに力を合わせる事が大切だというような話があります。その話は、それで結構ですが、隸書体または楷書体に基づいた話です。古い字を見ると、「人」という文字は、元は、人の姿を横から見た形だということが分かります。



■経歴

新潟大学教育学部卒業後、公立高等学校教員等を経て、二松学舎大学文学部に30年、千葉大学教育学部に10年勤務した。その間、古文字研究及び書写・書道教育に携わるとともに、書道教育関係の出版及び学会活動を行った。平成20年、植草学園大学の開学に際して、発達教育学部の学部長となった。



U-heart

Vol.1
2008 November

このたび、植草学園の広報誌第1号を創刊するにあたり、関係の皆様にはお忙しい中をご協力いただき、ありがとうございました。編集委員を代表してお礼申し上げます。

さて、今回の編集作業で大きな問題となったのは、広報誌の名前をどうするかということでした。協議の結果、大学、短大、高校、幼稚園からなる植草学園にふさわしい名前を教

職員全員で考えることになりました。手続きとしては、まずは名前の公募をし、次にその一覧表に基づく投票を行い、最終的に得票数最上位のものを選定するという二段構えとなりました。結果は、「U-heart」となりました。この名前に違ふことなく、この広報誌が植草学園関係者をはじめ、地元の方々から全国各地の児童・生徒・保護者の皆様、教育・保健

医療・福祉等に携わる方々の「心と心をつなぐ情報誌」となることを祈念してやみません。

百有余年の歴史を誇る植草学園は、2008年度、四年制大学の開学を機に、また新たな歴史を刻もうとしています。植草学園と皆様の更なる発展のために、この広報誌が、微力ながらも寄与できることを期待します。

広報誌編集委員長 長谷川修治

U-heart編集委員会
編集委員長/長谷川修治 編集副委員長/井口ひとみ
編集委員/村上仁之 相磯友子 植草真歩 柴田浩代

編集協力・製作
空全舎/長澤 立 トランスアクト/高田嘉幸 TSY/林 猛夫
印刷/相和印刷株式会社

